

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	松岡 優菜
2. 審査委員	主 査：（兵庫教育大学 教授） 伊藤 大輔 副主査：（兵庫教育大学 教授） 海野 千畝子 委 員：（兵庫教育大学 教授） 市井 雅哉 委 員：（兵庫教育大学 教授） 佐田久 真貴 委 員：（鳴門教育大学 准教授） 古川 洋和
3. 論文題目	性暴力被害者における自己客体化に着目した心理的支援の検討
4. 審査結果の要旨	学校教育実践学専攻学校教育臨床連合講座 松岡優菜 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和7年7月15日（火） 19時00分～20時00分 場 所：オンライン 1. 学位論文の構成と概要 （1）構成 第1章 性暴力被害に関する研究動向 第2章 自己客体化を測定する尺度の開発 第3章 性暴力被害者における自己客体化の実態調査 第4章 性暴力被害者の自己客体化とPTSD症状、QOLとの関連の検討 第5章 自己客体化とPTSD症状との関連性を調整する要因の検討 第6章 総合考察 （2）概要 本研究の目的は、性暴力被害者における自己客体化の実態を解明し、自己客体化がPTSD症状に及ぼす影響とその緩和要因を明らかにすることであった。 第1章では、性暴力被害や自己客体化のこれまでの研究を概観し、課題点を整理した。 第2章では、自己客体化を評価するための自己報告式尺度の日本語版を開発し、その信頼性と妥当性を検討した。 第3章では、自己客体化とPTSD関連変数との関連性の検討を行った。 第4章では、自己客体化がPTSD症状にどの程度影響を及ぼしているのか、従来の治療ターゲットである否定的認知や回避的対処を統制した上で検討を行った。また、探索的にQOLへの影響についても検討を行った。 第5章では、第2章から第4章で得られた知見を踏まえて、自己客体化とPTSD症状の関連性を調整する要因としてセルフ・コンパッションに着目し、その調整効果を検討した。以上の結果から、自己客体化はPTSD症状に影響を及ぼしており、その調整変数として、セルフ・コンパッションの自己批判と孤立が有用である可能性が示唆された。 最後に、第6章では、第1章から第5章まで得られた結果をまとめ、総合考察を行った

2. 審査経過

(1) 審査概要

松岡氏の論文概要についての口頭発表が行われ、各審査委員から論文内容についての質疑、それらへの松岡氏の応答を経て、審査委員会による審査が行われた。

(2) 学位論文の独創性と発展性について

本論文は、性暴力被害という特徴を考慮して、自己客体化という新たな治療ターゲットとなる可能性を示唆した先駆けとしての研究として位置付けられる。まず、自己客体化を測定可能なツールが整備されたことで、効果的な支援を提供するために必要な実証的な研究知見の蓄積が可能となり、今後の研究領域の発展に寄与する。さらに、その自己客体化に対して、セルフコンパッションに着目した支援を行うことが有効である可能性についてデータに基づいて実証的に明らかにした点が独創的である。

(3) 学校教育の実践への貢献あるいは社会的貢献

本論文における性暴力被害者の自己客体化に関する知見は、医療あるいは司法領域におけるアセスメントや支援に関する臨床応用のみならず、学校現場における性教育・予防教育などへの知見として活かすことができる。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 松岡優菜 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。